

(2)
皇室政府声明

S 1.1.1.0-27 2633 0001

REEL No. A-0217

0 3 3 9

アジア歴史資料センター

昭
12.7.11

帝國政府聲明 (昭和十二年七月十一日夕刻發表)

相國ク支那側ノ侮日行爲ニ對シ支那駐屯軍ハ隱忍靜觀中ノ處從來我ト
提擄シテ北支ノ治安ニ任シアリシ第二十九軍ノ七月七日夜半蘆溝橋附
近ニ於ケル不法射撃ニ據テ發シ該軍ト衝突ノ已ムナキニ至レリ爲ニ平
津方面ノ情勢逼迫シ我在留民ハ正ニ危殆ニ瀕スルニ至リシモ我方ハ和
平解決ノ望ヲ棄テス事件不擴大ノ方針ニ基キ局地的解決ニ努力シ一旦
第二十九軍側ニ於テ和平的解決ヲ承諾シタルニ不拘突如七月十日夜ニ
至リ彼ハ不法ニモ更ニ我ヲ攻撃シ再ヒ我軍ニ相當ノ死傷ヲ生スルニ至
ラシメ而モ瀕ニ第一線ノ兵力ヲ増加シ更ニ西苑ノ部隊ヲ南進セシメ中
央軍ニ出動ヲ命スル等武力的準備ヲ進ムルト共ニ平和的交渉ニ應スル

S 1.1.1.0 - 27

2634

0002

昭
和
7.
11

ノ誠意ナク遂ニ北平ニ於ケル交渉ヲ全面的ニ拒否スルニ至レリ以上ノ
事實ニ鑑ミ今次事件ハ全ク支那側ノ計畫的武力抗日ナルコト最早疑ノ
餘地ナシ

思フニ北支治安ノ維持カ帝國及滿洲國ニトリ緊急ノ事タルハ茲ニ贅言
ヲ要セサル處ニシテ支那側カ不法行爲ハ勿論支那側ノ排日侮日行爲ニ
對スル謝罪ヲ爲シ及今後カ、ル行爲ナカラシムル爲ノ適當ナル保障等
ヲ爲スコトハ東亞ノ平和維持上極メテ緊要ナリ

仍テ政府ハ本日ノ閣議ニ於テ重大決意ヲ爲シ北支出兵ニ關シ政府トシ
テ執ルヘキ所要ノ措置ヲナス事ニ決セリ

然レトモ東亞平和ノ維持ハ帝國ノ常ニ顧念スル所ナルヲ以テ政府ハ今

S 1.1.1.0 - 27

2635

後共局面不擴大ノ爲平和的折衝ノ望ヲ捨テス支那側ノ速カナル反省ニ
依リテ事態ノ圓滿ナル解決ヲ希望ス又列國權益ノ保全ニ就テハ固ヨリ
十分之ヲ考慮セントスルモノナリ

S 1.1.1.0 - 27 2636

0003

REEL No. A-0217



政 府 聲 明 (昭和十二年七月廿七日午后書記官長談)

北支ノ安寧ハ帝國ノ常ニ至大ノ關心ヲ有スル所ナリ、然ルニ支那側ノ徹底セル排日抗日政策ハ屢々北支ノ平和ヲ脅威シ遂ニ蘆溝橋事件ノ勃發ヲ見ルニ至レリ

爾來帝國ハ東亞平和ノ爲事件不擴大、現地解決ヲ方針トシテ平和的處理ニ努メ、冀察側ニ對シ支那軍ノ蘆溝橋付近永定河左岸駐屯停止、將來ニ關スル所要ノ保障、直接責任者ノ處罰及謝罪ノ極メテ寛大且局地的ナル條件ヲ要求シタルニ過ギズ、冀察側ハ七月十一日夜右條件ヲ承認シタルモ之ガ實行ニ誠意ヲ示サズシテ今日ニ及ベリ。一方帝國政府ハ七月十七日南京政府ニ對シ、アラユル挑戰的言動ヲ即時停止シ且現

昭
27
27

S 1.1.1.0 - 27

2637

0004

昭
12
7
27

地解決ヲ妨害セザル様注意ヲ喚起シタルモ、南京政府ハ現實ノ事態ヲ無視シ帝國政府ノ主張ヲ容レズ、却ツテ益々戰備ヲ整へ愈々不安ヲ増大セシムルニ至レリ、然レトモ帝國ハ尙隱忍、平和的解決ニ努力中支那側ハ七月二十六日廊坊ニ於テ電線修理ニ任ズル我部隊ニ不法射撃ヲ加へ、更ニ同日夕居留民保護ノ爲冀察側ノ諒解ヲ得テ北平城内ニ入城中途ノ我部隊ニ對シ突如城門ヲ閉鎖シ不意ニ急射スルノ暴舉ニ出デタ

リ
右兩事件タルヤ我駐屯軍本然ノ任務タル北平、天津間ノ交通線ノ確保及居留民ノ保護ニ對スル支那軍ノ武力妨害ニシテ今ヤ軍ハ此ノ任務遂行並ニ協定事項ノ履行確保ニ必要ナル自衛行動ヲ採ルノ已ムナキニ至

S 1.1.1.0 - 27

2638

REEL No. A-0217

0344

アジア歴史資料センター

レリ、固ヨリ帝國ノ期スル所ハ、今次事件ノ如キ不祥事發生ノ根因ヲ
芟除スルニ在リテ善良ナル民衆ヲ敵視スルモノニアラズ、又帝國ハ何
等領土の企圖ヲ有セズ、且列國ノ權益保護ニハ最善ノ努力ヲ惜シマザ
ルコト勿論ナリ

東亞ノ平和確保ヲ使命トスル帝國ハ事茲ニ至ルモ今尙支那側ノ反省ニ
依リ局面ヲ最小ノ範圍ニ限定シ、速ニ圓滿ナル解決ヲ見ンコトヲ切望
スルモノナリ

S 1.1.1.0 - 27

2639

0005

REEL No. A-0217

0345

アジア歴史資料センター

帝國政府聲明 (昭和十二年八月十五日午前一時十分發表)

帝國夙ニ東亞永遠ノ平和ヲ冀念シ、日支兩國ノ親善提携ニ力ヲ效セル
コト久シキニ及ベリ。然ルニ南京政府ハ排日抗日ヲ以テ國論昂揚ト政
體強化ノ具ニ供シ、自國國力ノ過信ト帝國ノ實力輕視ノ風潮ト相俟チ、
更ニ赤化勢力ト苟合シテ反日侮日愈々甚シク以テ帝國ニ敵對セントス
ルノ氣運ヲ醸成セリ。近年幾度カ惹起セル不祥事件何レモ之ニ因由セ
ザルナシ。今次寧波ノ發端モ亦此ノ如キ氣勢ガ其ノ爆發點ヲ偶々永定
河畔ニ惹ビタルニ過ギズ、通州ニ於ケル神人共ニ許サザル殘虐事件ノ
因由亦茲ニ發ス。更ニ中南支ニ於テハ支那側ノ挑戰的行動ニ起因シ帝
國臣民ノ生命財產既ニ危殆ニ瀕シ、我居留民ハ多年營々トシテ建設セ

昭
12
8
15

S 1.1.1.0 - 27 2640

0006

昭
14
8.15

ル安任ノ地ヲ派チ吞ンデ遂ニ一時撤退スルノ已ムナキニ至レリ。願ミレバ寧ろ發生以來屢々聲明シタル如ク、帝國ハ隱忍ニ隱忍ヲ重ネ事件ノ不擴大ヲ方針トシ、努メテ平和的且局地ニ處理センコトヲ企圖シ、平津地方ニ於ケル支那軍屢次ノ挑戰及不法行爲ニ對シテモ、我が支那駐屯軍ハ交通線ノ確保及我が居留民保護ノ爲眞ニ已ムル得サル自衛行動ニ出デタルニ過ギズ。而モ帝國政府ハ夙ニ南京政府ニ對シテ挑戰的言動ノ即時停止ト現地解決ヲ妨害セザル殊注意ヲ喚起シタルニモ拘ラズ、南京政府ハ我が勸告ヲ聽カザルノミナラズ、却テ益々我方ニ對シテ戰備ヲ整へ、嚴存ノ軍事協定ヲ破リテ願ミルコトナク、軍ヲ北上セシメテ我が支那駐屯軍ヲ脅威シ又漢口上海其他ニ於テハ兵ヲ集メ

S 1.1.1.0 - 27 2641

REEL No. A-0217

アジア歴史資料センター

テ愈々挑戦的態度ヲ露骨ニシ、上海ニ於テハ遂ニ我ニ向ツテ砲火ヲ開キ帝國軍艦ニ對シテ爆撃ヲ加フルニ至レリ。

此ノ如ク支那側ガ帝國ヲ輕侮シ不法暴虐至ラザルナク全支ニ互ル我が居留民ノ生命財産危殆ニ陥ルニ及ンデハ、帝國トシテハ最早隱忍其ノ限度ニ達シ、支那軍ノ暴戾ヲ膺懲シ以テ南京政府ノ反省ヲ促ス爲今ヤ斷乎タル措置ヲトルノ已ムナキニ至レリ。

此ノ如キハ東洋平和ヲ念願シ日支ノ共存共榮ヲ翹望スル帝國トシテ衷心ヨリ遺憾トスル所ナリ。然レトモ帝國ノ庶幾スル所ハ日支ノ提携ニ在リ。之ガ爲支那ニ於ケル排外抗日運動ヲ根絶シ今次事變ノ如キ不祥事發生ノ根因ヲ芟除スルト共ニ日滿支三國間ノ融和提携ノ實ヲ擧ゲン

トスルノ外他意ナク、固ヨリ毫末モ領土の意圖ヲ有スルモノニアラズ。又支那國民ヲシテ抗日ニ臨ラシメツツアル南京政府及國民黨ノ覺醒ヲ促サントスルモ、無辜ノ一般大衆ニ對シテハ何等敵意ヲ有スルモノニアラズ且列國權益ノ尊重ニハ最善ノ努力ヲ惜マザルベキハ言ヲ俟タザル所ナリ。

S 1.1.1.0 - 27

2643

S 1.1.1.0 - 27

2642

0007

國民政府ヲ相手トセス

A.1.1.0.30

帝國政府聲明 (昭和十三年一月十六日)

帝國政府ハ南京攻略後尙支那國民政府ノ反省ニ最後ノ機會ヲ與フル爲今日ニ及ベリ、然ルニ國民政府ハ帝國ノ眞意ヲ解セス漫リニ抗戰ヲ策シ、内民人塗炭ノ苦ミヲ察セズ、外東亞全局ノ和平ヲ願ミル所ナシ、仍テ帝國政府ハ爾後國民政府ヲ相手トセス、帝國ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那政權ノ成立發展ヲ期待シ、是ト兩國關係ヲ調整シテ更生新支那ノ建設ニ協力セントス、元ヨリ帝國カ支那ノ領土及主權並ニ在支列國ノ權益ヲ尊重スルノ方針ニハ毫モカハル所ナシ、今ヤ東亞和平ニ對スル帝國ノ責任愈々重シ

政府ハ國民カ此ノ重大ナル任務遂行ノ爲一層ノ發奮ヲ冀望シテ止マズ

昭
13
16

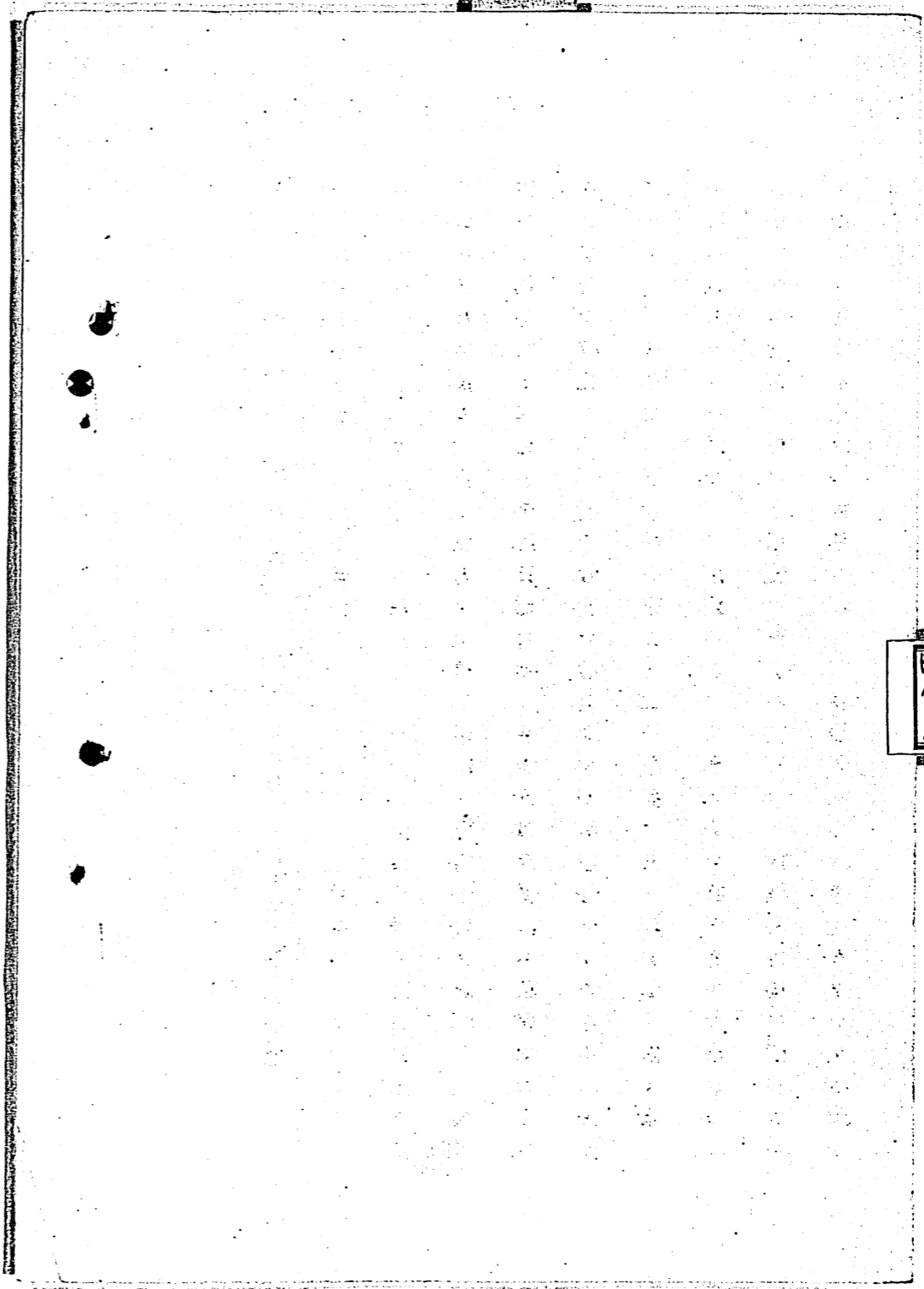
S 1.1.1.0 - 27 2644

0008

REEL No. A-0217

0 3 4 5

アジア歴史資料センター



82
13
/
16

REEL No. A-0217



アジア歴史資料センター

秘

中華民國臨時維新兩政府聲明ニ呼應スル
帝國政府聲明ニ關スル要望

昭和十三年六月廿日
陸軍省案

2645

S 1.1.1.0 - 27

首題ノ帝國政府聲明ニ關シ特ニ左ノ趣旨ヲ明徴セラルルコトヲ要望ス
六月十八日中華民國臨時維新兩政府ノ聲明ハ帝國政府ノ方針ト符節
ヲ合スルモノニシテ支那側カ自發的ニ日支ノ事態ヲ適正ニ認識セル
ハ欣快ニ堪ヘサル所ニシテ右聲明ノ具現ヲ希望ス

ニ帝國政府ノ事變ニ對スル態度ハ飽クマテ本年一月十六日聲明ノ方針
ヲ堅持シ國民政府ヲ相手トセス帝國ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那
政權ノ成立發展ヲ期待シ是ト兩國國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設
ニ協力スルモノナルコトヲ明確ニシ兩國政權カ速ニ右新興政權ノ主體

昭 3. 6. 20

0009

第一項、飽く迄作戦
進め、() 下、明
第二項、西、以、
体化、
第四項、
、

REEL No. A-0217

昭和十三年六月廿日
陸軍省案

0009

華民國臨時維新兩政府聲明ニ呼應スル

政府聲明ニ關シ特ニ左ノ趣旨ヲ明徴セラルルコトヲ要望ス

日中華民國臨時維新兩政府ノ聲明ハ帝國政府ノ方針ト符節

モノニシテ支那側カ自發的ニ日支ノ事態ヲ適正ニ認識セル

境ヘサル所ニシテ右聲明ノ具現ヲ希望ス

ノ事變ニ對スル態度ハ飽クマテ本年一月十六日聲明ノ方針

國民政府ヲ相手トセス帝國ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那

立發展ヲ期待シ是ト兩國國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設

ルモノナルコトヲ明確ニシ兩政權カ速ニ右新興政權ノ主體

昭3.6.20

第一項、此等諸作、執行、積極、的、
進、行、ス、キ、事、ヲ、明、ス
第二項、兩政府、カ、ラ、兩、政、權、ノ、統、合、ニ
依、リ、シ、テ、互、ニ、協、力、シ、テ、協、定、シ、タ、ル、政、策、ニ、依、リ、
テ、進、行、ス、ル、事、ヲ、明、ス
第三項、此等諸作、執行、積極、的、
進、行、ス、キ、事、ヲ、明、ス

タルヘキヲ要望ス

三、聲明ハ蔣政權ヲ對照トスルノミナラス廣ク支那一般要人將領及民衆

ニ對シ蔣政權ノ惡政ヲ指摘シ以テ蔣政權ノ分裂崩壞、民心ノ離叛及

新興支那政權ノ大同團結ヲ策ス之カ爲特ニ黄河ノ決潰、黄河鐵橋ノ

破壞、都市就中軍事建設物以外ノ燒却等ヲ指摘ス

四、第三國ノ對文援助ハ帝國ノ眞劍ナル戰爭行動ヲ妨害スルノミナラス

却ツテ支那國民ノ苦難ヲ繼續增長シ延テ東亞ノ和平ヲ招徠スル所以

ニアラサルコトヲ強調ス

82
13.
6.
20

S 1.1.1.0 - 27

2646

REEL No. A-0217

0 3 5 3

アジア歴史資料センター

秘

中華民國臨時維新兩政府聲明ニ呼應スル
帝國政府聲明ニ關スル要望

昭和十三年六月廿日
陸軍省案

首題ノ帝國政府聲明ニ關シ特ニ左ノ趣旨ヲ明徴セララルコトヲ要望ス

一、六月十八日中華民國臨時維新兩政府ノ聲明ハ帝國政府ノ方針ト符節

ヲ合スルモノニシテ支那側カ自發的ニ日支ノ事態ヲ適正ニ認識セル

ハ欣快ニ堪ヘサル所ニシテ右聲明ノ具現ヲ希望ス

二、帝國政府ノ舉變ニ對スル態度ハ飽クマテ本年一月十六日聲明ノ方針

ヲ堅持シ國民政府ヲ相手トセテ帝國ノ眞ニ提携スルニ足ル新興支那

政權ノ成立發展ヲ期待シ是ト兩國國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設

ヲ協力スルモノナルコトヲ明確ニシ兩政權カ速ニ右新興政權ノ主體

タルヘキヲ要望ス

三、聲明ハ蔣政權ヲ對照トスルノミナラス廣ク支那一般要人將領及民衆

ニ對シ蔣政權ノ惡政ヲ指摘シ以テ蔣政權ノ分裂崩壞、民心ノ離叛及

新興支那政權ノ大同團結ヲ策ス之カ爲特ニ黃河ノ決潰、黃河鐵橋ノ

破壞、都市就中軍事建設物以外ノ燒却等ヲ指摘ス

四、第三國ノ對支援助ハ帝國ノ眞劍ナル戰爭行動ヲ妨害スルノミナラス

却ツテ支那國民ノ苦難ヲ繼續增長シ延テ東亞ノ和平ヲ招徠スル所以

ニアラサルコトヲ強調ス

S 1.1.1.0 - 27

2648

S 1.1.1.0 - 27

2647

0010

陸軍

0012

一月十八日中華民國臨時維新西
 政府ノ聲明ニ帝國政府ノ開辦
 方針ニシテ支那側カ自發的ニ自
 支ノ事態ヲ通正、認識セルニ快決ニ
 堪ヘルモ其所ニテ右等ハ、具程ヲ存ス
 帝國政府ノ事變ニ對スル態度ニ本年
 一月十日^{ノ方針}聲明ハ、堅持シ國民政府ヲ
 相手トセシメ帝國ト真ニ提携スルニ足ル
 新興支那政権ノ成立發展ヲ期待シ
 是下兩國國交ヲ調整シテ更生新支那
 ノ建設ニ協力スルヲ以テ明確ニ西政
 權カ運カレ、右等與政府ノ主作タルハ、^{高望ス}
 三聲明ハ、蔣政権ヲ封阻トスルニシテ、^廣
 ノ支那一般要人將領及民衆ニ對シ
 蔣政権ノ惡政ヲ指摘シ以テ蔣政権

(日本標準規格 B-4)

S 1.1.1.0 - 27

2651

S 1.1.1.0 - 27

2650

REEL No. A-0217

アジア歴史資料センター

陸軍

0013

ノ分裂崩壊果民心ノ離叛ヲ及新
其支那政権ノ^{大目用信}維持ヲ策ス之カヲ

特ニ黄河ノ決潰、黄河鉄橋ノ破壊却
市北中軍ヲ建設物以外ノ^等境知^等以^{指導}

擡ス

支那、南朝正統年山始ヲ始事ス

四、第三國ノ對支援助、却テ^{支那}國民ノ苦難ヲ

健康増長ニ延テ東亞、和平ヲ招徠ス

ル所以、ア^リサ^レシ^トシ^テ強^ク調^ス

(日本標準規格 B-4)

S 1.1.1.0 - 27

2653

S 1.1.1.0 - 27

2652

REEL No. A-0217

アジア歴史資料センター



隊前が我ら渡を河黄の近附封閉

【閉封にて大谷特派員】
大谷特派員は、黄河の渡を封鎖し、我ら隊前を封鎖した。...

【脚兵隊公判】
脚兵隊の公判が行われ、被告は有罪と認められた。...

【折も折宇垣さん】
折も折宇垣さん、早大で親心の熱弁。...

馬糞に残る麥を喰ふ

【悲惨言語に絶す黄河畔の農民】
黄河畔の農民は、馬糞に残る麥を喰ふという悲惨な状況に陥っている。...

貧しき銃後

【本庄郷長がお見舞】
本庄郷長は、銃後の貧しい状況を憂い、お見舞いを述べた。...

【練習機墜落】
練習機が墜落し、乗組員が負傷した。...

【千八百名のインテリが就職】
千八百名のインテリが就職し、社会復帰を果たした。...

【國管職紹の初仕事】
國管職紹の初仕事が行われ、大成功を収めた。...

六名生埋め

【親加】
六名が生埋めされたという噂が流れている。...

結婚も激増 帝都の

【結婚も激増 帝都の】
帝都では結婚が激増しているという。...

揃ろた揃ろたよ

【女學生の愛園田植】
女學生が愛園田植を行い、揃ろた揃ろたよ。...

【日本特殊鋼の火事】
日本特殊鋼の火事発生、被害甚大。...

【野津工務店】
野津工務店の最新情報。...

野津工務店 (工事簿金御用愛)
参考図書現代建築
三訂版 三三六四

CHAVE
林道香組
CHAVE
林道香組

怪殺人書
Z-Lite
Z-Lite

波派
Z-Lite
Z-Lite

秘

昭和十三年六月廿日
陸軍省案

中華民國臨時維新兩政府聲明ニ呼應スル
帝國政府聲明ニ關スル要望

首題ノ帝國政府聲明ニ關シ特ニ左ノ趣旨ヲ明徴セララルコトヲ要望ス
一、六月十八日中華民國臨時維新兩政府ノ聲明ハ帝國政府ノ方針ト符節
ヲ合スルモノニシテ支那側カ自發的ニ日支ノ事態ヲ適正ニ認識セル
ハ欣快ニ堪ヘサル所ニシテ右聲明ノ具現ヲ希望ス

二、帝國政府ノ事變ニ對スル態度ハ飽クマテ本年一月十六日聲明ノ方針
ヲ堅持シ國民政府ヲ相手トシテ帝國政府ノ提議ニ應ジテ新支那
政權ノ成立發展ヲ期待シ且兩國間交渉ヲ調整シテ東生新支那ヲ建設
ニ協力スルモノラルコトヲ明確キニ兩政權力速ニ右新興政權ノ主體
イテ

總合二体化シ念其内容ヲ括定ス

（ハ実ノ事ノ）
タルヘキヲ要望ス

三、聲明ハ蔣政權ヲ對照トスルノミナラス廣ク支那一般要人將領及民衆
ニ對シ蔣政權ノ惡政ヲ指摘シ以テ蔣政權ノ分裂崩壞、民心ノ離叛及
新興支那政權ノ大同團結ヲ策ス之カ爲特ニ黄河ノ決潰、黄河鐵橋ノ
破壞、都市就中軍事建設物以外ノ燒却等ヲ指摘ス
四、第三國ノ對支援助ハ帝國ノ眞劍ナル戰行行動ヲ妨害スルノミナラス
却ツテ支那國民ノ苦難ヲ繼續增長シ延テ東亞ノ和平ヲ招徠スル所以
ニアラサルコトヲ強調ス

0015

S 1.1.1.0 - 27

2655

S 1.1.1.0 - 27

2656

極秘

中華民國臨時維新兩政府聲明ニ呼應スル
帝國政府聲明ニ關スル要望

昭和十三年六月廿日
陸軍省案

陸軍

首題ノ帝國政府聲明ニ關シ特ニ左ノ趣旨ヲ明徹セラルルコトヲ要望ス

一、六月十八日中華民國臨時維新兩政府ノ聲明ハ帝國政府ノ方針ト符節ヲ合スルモノニシテ支那側カ自發的ニ日支ノ事態ヲ適正ニ認識セルハ欣快ニ堪ヘサル所ニシテ右聲明ノ具現ヲ希望ス
二、帝國政府ノ事變ニ對スル態度ハ飽クマテ不變ナルコトヲ明確ニシ兩政權カ速ニ統合ニ一体化シ愈々其内容ヲ擴充シ右新興政權ノ主体タルノ實ヲ擧クルヘキヲ要望ス

三、聲明ハ蔣政權ヲ對照トスルノミナラス廣ク支那一般要人將領及民衆ニ對シ蔣政權ノ惡政ヲ指摘シ以テ蔣政權ノ分裂崩壞、民心ノ離叛及新興支那政權ノ大同團結ヲ策ス之カ爲特ニ黃河ノ決潰、黃河鐵橋ノ破壞、都市就中軍事建設物以外ノ燒却等ヲ指摘ス
四、第三國ノ對支援助ハ帝國ノ真劍ナル作戰行動ヲ妨害スルノミナラス却ツテ支那國民ノ苦難ヲ繼續增長シ延テ東亞ノ和平ヲ招徠スル所以ニアラサルコトヲ強調ス

S 1.1.1.0 - 27. 2658

S 1.1.1.0 - 27. 2657

0016

極秘

陸軍

昭和十三年六月廿日
陸軍省案

中華民國臨時維新兩政府聲明ニ呼應スル
帝國政府聲明ニ關スル要望

首題ノ帝國政府聲明ニ關シ特ニ左ノ趣旨ヲ明徴セラルルコトヲ要望ス

一、六月十八日中華民國臨時維新兩政府ノ聲明ハ帝國政府ノ方針ト符節ヲ合スルモノニシテ支那側カ自發的ニ日支ノ事態ヲ適正ニ認識セルハ欣快ニ堪ヘサル所ニシテ右聲明ノ具現ヲ希望ス
二、帝國政府ノ專横ニ對スル態度ハ飽クマテ不變ナルコトヲ明確ニシ兩政權カ速ニ統合ニ一体化シ愈々其内容ヲ擴充シ右新興政權ノ主体タルノ實ヲ擧クルヘキヲ要望ス

三、聲明ハ蔣政權ヲ對照トスルノミナラス廣ク支那一般要人將領及民衆ニ對シ蔣政權ノ惡政ヲ指摘シ以テ蔣政權ノ分裂崩壞、民心ノ離叛及新興支那政權ノ大同團結ヲ策ス之カ爲特ニ黃河ノ決潰、黃河鐵橋ノ破壞、都市就中軍事建設物以外ノ燒却等ヲ指摘ス
四、第三國ノ對支援助ハ帝國ノ真劍ナル作戰行動ヲ妨害スルノミナラス却ツテ支那國民ノ苦難ヲ繼續增長シ延テ東亞ノ和平ヲ招徠スル所以ニアラサルコトヲ強調ス

0017

2659

S 1.1.1.0 - 27

2660

S 1.1.1.0 - 27

新聲明 (附註書)

昭和十三年十二月二十二日午後九時二十五分発表

近衛首相聲明

政府ハ本年兩度ノ聲明ニ於テ明カニシタル如ク終始一貫
拓日國民政府ノ徹底的武力掃蕩ヲ期スル共ニ支那ノ
亦全同要員眼ノ士ト相推テ東亞新秩序ノ建設
ニ向ッテ邁進セントスルモノナリ 今ヤ支那各地ニ於テハ更生
ノ熱力澎湃トシテ起リ建設ノ氣運ハ熱々高々ニ感得
セラルモガアル是ニ於テ政府ハ更生新支那ノ關係ヲ調
整スヘキ根本方針ヲ中外ニ聲明シ以テ帝口ノ真意

0018

2661

S 1.1.1.0 - 27

昭13.12.22

0019

2662

S 1.1.1.0 - 27

徹底ヲ期スルモノナリ 日滿支三國ハ東亞新秩序ノ建設
ヲ共同ノ目的トシテ結合シ相互善隣友好共同防衛
經濟提携乃ノ要員ヲ確保セントスルモノナリ 之レカ爲メハ支那
ハ先ヅ何ヨリモ舊來ノ偏狹ナル觀念ヲ清算シテ抗日ノ
愚ト滿洲口ニ對シテ拘泥ノ情トヲ一掃スルコトカ切要ナル即
チ日本ハ支那カ進シテ滿洲口ト完全ナル口交ヲ修メンコトヲ
率直ニ要望スルモノナリ 次ニ東亞ノ天地ニハスモンテシテ勢力ノ
存在ヲ許スヘカナルカ故ニ日本ハ日獨伊防共協定ノ精神
ニ則リ日支防共協定ノ締結ヲ以テ日支口交調和ニ上テ緊

ノ要件トスルモノトシテ、而シテ支那ニ現存スル事實情ニ鑑ミ、此ノ防
共主義ノ目的ニ対スル充分ナル保證ヲ與フク爲メ、共同協定
繼續期間中、特定地域ニ日本軍ノ防共駐屯ヲ認ムルコト
及ビ内蒙地方ヲ特殊防共地域トスヘキコトヲ要求スルモノトシテ、
日本經濟關係ニ就イテハ、日本ハ何等支那ニ於テ經濟的優
占ヲ行ハントスルモノニ非ス、又新シキ東亞ヲ理解シ之レニ即應
シテ行動セントスル善意ノ第三口ノ利益ヲ制限スルカ如キコト
ヲ支那ニ求ムルモノニ非ス、唯、飽ク迄日支ノ協力ト合作トラン
テ、實效アリシモノトシテ、斯ルモノトシテ、即チ日支平等ノ原則

外務省

S 1.1.1.0 - 21

2663

0020

原則ニ立テテ、支那ハ帝日臣民ニ支那内地ニ於テ居住營業
業ノ自由ヲ容認シテ、日支兩國民ノ經濟的利益ヲ促進シ、且
シ日支間ノ一貫的經濟的關係ニ鑑ミ、特ニ北支及内蒙地
域ニ於テハ、ソノ資源ノ開拓利用上、日本ニ對シ積極的ニ便宜
ヲ與フルコトヲ要求スルモノトシテ、日本ノ支那ニ西支求ムルモノハ、大綱
ハ以上ノ如キモノトシテ、日本ハ敢テ大軍ヲ動かセルニ身意ニ徹ス
ルナラバ、日本ノ支那ニ求ムルモノガ返シタル領土ニアラス、又戰費
ノ賠償ニ非サルコトハ、明白カデアル、日本ハ實ニ支那ノ新
秩序ノ建設ノ分担者トシテ、職能ヲ履行スルニ必要ナル量

外務省

S 1.1.1.0 - 27

2664

0021

保護ノ保障ヲ要求セントスルモノナリ
日本ハ支那ノ主權
ヲ尊重スルハ固ヨリ、進ンテ支那ノ獨主完全ノ爲メニ必ズ
スル治外法權ヲ撤廃シ且シ租界ノ返還ニ對シテ積極的
ナル考慮ヲ拂フニ志ナラサルモトナリ

外務省

S 1.1.1.0 - 87

2665

0022

REEL No. A-0217

0365

アジア歴史資料センター

昭和十三年十二月三十日午後九時發表

汪精衛聲明

去四月間催サレタ臨時全日代表大會ニ於テ發セラレタ
中日現在ノ抗戰理由ニ關スル部分ニ次ノ如キ一節が
フジ一九三四年塘沽停戰協定結了後アラニ辱辱意
ンデ日本トノ交渉ニ應ジテキタハ一ツニ軍事行動ヲ避ケ次
ノ二事業ヲ平和的方法ニヨリテ遂行セント願シタカラニ外ナラ
又即ケ此二事業トハ第一ハ北支諸省ノ安全ヲ保障シ
第二ニ東北四省ノ懸案ノ合理的ノ解決ヲ實現セント

外務省

S 1.1.1.0 - 27 2667 0024

ニテノデア、即ケ政治的ニ我々ノ要求スル且無制限ノ條件ハ
我々ニ於ケル外日權益ノ不侵害、獨立ノ保障、領土ノ保
全ニアリ他方經濟的ニ我々ノ指導方針ハ互惠主義ト
平等ニアツタ然ルニ一九三七年七月廿五滿洲條件ノ勅令
ニヨリ去即ハ上記ノ如キ平和的解決ハノ希望ノ到底實現
シ得サルヲ知ルト同時ニ武器ヲ執シテ抵抗セサルヲ得サルニ至リ
タ、然ルニ日本政府ハ去ル十二月二十二日ノ聲明ニ於テ日支日交
商調整ニ關スル日本政府ノ根本方針ヲ闡明シテ右方針ニ
於テ強固カレタ第一ノ案ハ善隣並ニ友好ノ主義ヲ以テ即チ

外務省

S 1.1.1.0 - 27 2668 0025

右聲明ハ日本ハ支那ニ對シ領土ヲ賠償ヲモ要求スル
モノニ非ス

日本ハ支那ノ主權ヲ尊重スルニ然シ支那ノ完全ナル獨立ヲ
確保スル為ニ日本ハ日本ガ明治時代ニ於テ実行セシ政策ノ
例ニ倣ヒ日本人カ支那ニ於テ自由ニ生活シ且商業ヲ經營シ
得ル代價トシテ日本ハ支那ニ對シ租界ヲ還シ且支那
ニ於ケル治外法權ノ撤廃ニ同意セントシテ且日本政府ガ此
宣言ヲ發表セル以上平和的手段ニヨリテ北支各省ノ
安全ヲ保障シ得ルノミナラス又今次事變ノ過程ニ於テ失レタ

外務省

領土ヲ恢復シ得カクテ支那ノ領土主權行政的獨立並領
土保全ヲ得ルテアラウニ我々ハ大會ハ宣言ニ從ヒ北支四
省問題ノ合理的解決ヲ得ル為ニ我々ノ態度ヲ決定シ何等
カノ措置ニ出ジベキデアル第二ノ點ハ防共提議乃テ此ノ問題
ハ過去數ヶ年ニ亙リ日本政府ニヨリテ極メテ尊重ニ提起サレタ
然レ我々ハ日本トノ斯ル防共提議乃ハ支那ノ軍事的並政治
的困難ノ干渉ニ違導ク可能性アリトシテ之ニ對シ疑念
ヲ抱イテ來タガ日本カ日支防共協定ハ現存スル日獨伊三
日防共協定或文ト同様ニ精神ニ於テ結サレバ且極メ

外務省

率直に言明ラシタ以上斯レ疑惑ハ今ヤ撤回サレテ可ナ
リデ防共協定ノ目的カ共產党ノ口際陰謀ヲ防止轉覆
セントスルモノテ凡ソ以上此ノ理由ニ基キ同協定ハ支那ノソソ聯ト
關係ニ影響音ヲ及ボサレムベキデナイ。加之中国共產党ノ
口際陰謀ヲ防止轉覆セントスルモノテ凡ソ以上此ノ理由ニ基キ
同協定ハ支那ノソソ聯トノ關係ニ影響音ヲ及ボサレムベキデナ
イ。加之中国共產党ハ既ニ三民主義ニ從フベキ事ヲ折言約
夕以上共產党トシテハ其ノ黨組織並宣傳工作ヲ止メソノ辺境
政府ヲ廢止スル共ニ又ソノ特別軍事組織ヲ廢止シ且シ

外務省

S. 1.1.1.0 - 27

2671

0028

中華民國政府ノ法律制度ニ絶対的ニ服從スベキデア
三民主義ナルモノハ支那國民ノ根本主義デアリ從シテ祖國ヲ防
衛スル我々ノ義務ヲ遂行スル爲ニハ我々ハ自動的ニ且積極的ニ
右ノ主義ト北月馳スアラユル組織トカ宣傳トカ「彈」壓シテ去バナラ
又第三ノ点ハ經濟提推乃デアルコノ問題モ亦同様過去數
年ニ亘リ日本政府カラ屢々申込ミガ多ク然レテ現在迄我々ハ政治的
混亂ガ未解決ノマ、強サレセル限り經濟提推乃ノ如キハ全ク問題
ニナラヌトノ見解ヲ持シテ来タ然レ日本政府ハ今ヤ嚴肅ニ日本
ハ支那ノ主權政治的獨立及主權ヲ尊重スルト言明シ且ソ

外務省

S. 1.1.1.0 - 27

2672

0029

經濟的ニ日本ハ支那ニ對シテ獨占的支配ヲ目的トスルモノデナク又
支那ニ對シテ第三口權益ノ制限ヲ要求セントスルモノデナイ。亦日支
兩口間ノ經濟的協力ノタメ平等主義ニ立ツルモノトシテ豫約シテ其
事態ノ斯ノ如クテアルナラハ我々ハ原則トシテ之ニ同意シテ其基礎
ノ上ニ各種ノ具體的提案ヲ提出セホク我々ハ慎重ナル考
慮ノ後次ノ如ク確信ス。

日民政府ハ上記三點ノ基礎ノ上ニ速ニ和平恢復ノタメ日本
政府トノ意見ノ交換ヲスヘキデシ。此ノ際去十一月三日日本政府
カソノ聲明ニ於テ一月十六日ノ聲明ニ述ベタル態度ヲ変更シテ

外務省

コトヲ相起シシレバナラズ。從シテ若シ日民政府カ上記三點ヲ和
平討議ノ基礎トスラバ商議ノ途ハ開カレルベシ
去即ノ武力抵抗ノ目的ハソノ國家的存在ト獨立トヲ確保
スルヲ以テ既ニ一年以上及ビ現在ノ戰ノ過程ニ於テ我々
ハ甚大ナル打撃ヲ蒙リタ。若シ我々カ正義ニ則シテ平和ヲ圖
建シ得ルナラバ國家ノ存続ト獨立トハ維持サレコトニ武力抵抗
ノ目的ハ達成サレルベシ。而シテ以上ノ三點ハ平和ノ精神ト一
致スルモノテ更ニ和平ノ條件ニシテ我々ハソノ條件ノ台書
性ヲ確實ナラシムル爲メ之ニ慎重ナル考慮ヲ加ヘナケレバ又

外務省

高申特別重要の陸上兵、日本軍、支那兵、撤兵、ソノ全部
カ爲連且シアラズル方面ニ於イテ、有ニ行ハレナケレハナラヌコトアル
更ニ提議案サレタ日支防共協定ノ存續期間中日本軍ノ駐屯
スヘキ所謂特定地区、唯内蒙ノ附近ニシテ制限サレナケレハナ
ラヌコト駐兵、正ニ支那ノ主權並ニ政治的獨立及ニ領土權
ニ影響御膏ヲ及ボスモノアルガ支那、以上ノ制限カ行ハレル事ニ
ヨリテ始メテ戰後ノ復興ト因建事業トシテ遂行シ得ルコト
アル

日支兩國ノ近隣關係ニ鑑ミ中日並ニ日本ノ善隣ト友好關係
外務省

トハ極メテ自然ナコトデアリ且心要ナコトテ正當ナ狀態カラ遠
脱シテ非ニ現狀ニ徹底的ニ商榷討ヲ加ヘン必要ガアリ日支兩國
双方共ニ右ニ對シテ相互ノ責任ヲ明スヘキデアリ日支兩國間
ノ恒久的平和ノ礎石ヲ築ク爲メニ支那ハソノ教育政策ヲ
善隣主義ト相矛盾セシメサルノミナラス他方日本ノ側ニ於テ
亦支那ノ對シテ傳統的蔑視ノ態度並ニ征服思想ヲ放棄
シソノ代ニ親支的教育政策ヲ樹立スヘキデアリ之ニ東亞
福祉ノ爲ニ我等カ努ムヘキ所デアリ同時ニ太平洋ニ於テ
ソレナラス廣ク全世界ニ於テ平和ト安全トヲ確保スル爲ニ

外務省

我々の口際親善並に相互ノ利益増進ノ共通ノ大義ヲ爲
メニアラスニ關係者トモ協力スヘキヲ余ハコノ機會ヨリ利用
シテ以上述ヘ來ツタ提案ヲ且シ之等ノ提案が容レラレルコト
ヲ衷心希冀スルモノナリ

一九三八年十二月廿九日

外務省

S.I.I.O-27 2677

0034

秘

A. 1. 1. 0. 30 (本)

聲明文

現下日支事變及之ニ伴フ對支國策ハ方ニ帝國々連ノ懸ル所ニシテ其運用如何ハ實ニ我大陸政策成否ノ岐ルル所タルハ何人モ疑フ可カラス宜シク朝野心ヲ一ニシ力ヲ戮セテ之カ立案遂行ニ膺ルヲ要ス

元來一國ノ對外活動ハ軍事ト外交ニ依リ律セラレ而モ兩者トモ本質的ニ完全ナル一元の統制ヲ必要トス、軍事上ノ命令ガ二途ニ出スル時軍事的勝利ヲ期シ難ク之ガ爲統帥權ノ獨立ノ存スルト同様、一國ノ外交カ各種ノ機關ニ分掌セラレテ其ノ間統制ヲ缺ク時到底外交交渉ノ成功ヲ期シ難キヲ以テ外務省ガ唯一ノ涉外機關トシテ存置セラ

ルルコト實言ヲ要セス換言スレハ假令國內ニ於テ異論對立アル場合ニモ、外ニ對シテハ外務省ナル涉外機關ヲ通シテ之ヲ單一ノ國家的

S 1.1.1.0 - 27

2678

0035

主張トシテ表明センコト實ニ外務省設置ノ根本的趣旨ナリ、然レニ最近我國ノ趨勢ヲ見ルニ、内ニ於テハ舉國一致ノ提唱ニ依リ國民ノ結束ヲ固メ乍ラモ、我外交ヲ管掌スル機關ハ著シク分裂ノ傾向ヲ示シ來リ、舉國一体ノ結束モ外ニ對シテハ甚タシク其ノ效果ヲ減殺シツツアリ、即チ巷間或ハ外交ハ既ニ霞ケ關ヲ去レリト稱スルカ如キ事態ヲ現出シ、又滿洲國及支那ニ對スル政策ヲ外務省ヨリ名實共ニ分離シテ獨立ノ機關ノ管掌ニ委ネントシ、更ニ又我對外通商宣傳並ニ文化事業ヲ外務省ヨリ分離セシメントスルノ計畫アルヲ聞ク、斯クテハ我外交ハ恰モ本來ノ中樞神經ヨリ逸脱セル四肢ヲ夫々勝手ニ行動セシムルカ如キ恐ルヘキ無統制ニ陥ラントシ、急迫セル國際危局ニ直面シテ皇國ノ前途眞ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ

既ニ我等ハ外務省ニ在リテ外交不振ノ輿論ヲ聽ク事久シク今茲ニ外務省ノ解体トモ稱スヘキ氣運ニ直面シ、其因テ來ル所ヲ眞摯敬虔ノ念ヲ以テ深ク省察スルニ、我等報國ノ精神ト努力ニ於テハ敢テ人後ニ落ツルモノニ非ルコトヲ確信スルモ其ノ業績ニ至リテハ皇國ノ進路ヲ内外ニ闡明シ非常時ノ外交ヲ擔當指導スルニ欠クル所アリタルヲ痛感シ深ク之ヲ遺憾トスルモノナリ、而モ外務省現存ノ陣容ノミヲ以テ今直チニ複雑多岐ニ亘ル今日ノ對外活動、特ニ滿洲國及支那ニ對スル諸般ノ政策ヲ單獨擔當實施スルニ充分ナリトハ言ヒ難カルヘシ、然シ乍ラ右ヲ以テ外交機關ノ分裂ヲ肯定セントスルハ固ヨリ誤ナリ、外務省現在ノ陣容ヲ以テ我對外活動ヲ單獨處理スルニ力足ラストセハ、何故其人員ヲ増加變更シ其機構ヲ擴大強化セサルヤ又

述ノ如キ必要ニ應シテ徹底的ニ整備シ、各省間ノ「セクション」ナリズ
 ム」ハ一切率先之ヲ解消シテ民間ハ固ヨリ諸官省ヨリ有能愛國ノ人
 士ヲ集中活躍セシムルト共ニ、外務省ノ機構ハ名實共ニ完全ナル外
 交ノ一元的統合ヲ實現スル迄充分擴大強化シ、斯テ日本民族一体ト
 ナリテ邁進スヘキ外交上ノ大目標ノ下ニ未曾有ノ國際危局ヲ克服セ
 シコトヲ期スルモノナリ

右聲明ス

S 1.1.1.0 - 27

2682

0039

若シ其ノ局ニ當ル人ニシテ其ノ處ニ値セストセハ適材ヲ他ニ取り交
 送スレハ可ナリ、現存外務省ヲ構成スル人員ノ能力ノ問題トハ別備
 ニ、外務省ナル涉外機關ニ本然的ニ課セラレタル使命ハ嚴乎トシテ
 存在スルモノナルコトヲ忘ル可ラス、特ニ又那ニ對スル政策ヲ除外
 シテ歐米ニ對スル外交ナク、又政治經濟宣傳文化ノ何レヲ缺クモ外
 交機能ヲ完全ニ遂行シ得サルコト明カナルヲ以テ、實ニ新生東亞ノ
 新事態ニ適合セル新シキ外務省ノ誕生ヲ計リ茲ニ諸般ノ外交政策ヲ
 綜合統一センコト最モ賢明ノ策ニシテ而モ現下喫緊ノ要務タリ
 仍テ日本民族夫々公私共決然革新ヲ要スル此内外非常ノ秋ニ當リ、
 我等進ンテ外務省ノ更生の革新ヲ決意シ、先ツ日本ノ國際的地位ト
 國民的氣宇ヨリ見テアラユル情弊ヲ清算シ、現存外務省ノ人員ハ前

S 1.1.1.0 - 27

2681

0038

現下日支事變及之ニ伴フ對支國策ハ万ニ帝國々運ノ懸ル所ニシテ其運用如何ハ實ニ我大陸政策成否ノ岐ルル所タルハ何人モ疑フ可カラズ宜シク朝野心ヲ一ニシ力ヲ戮セテ之カ立案遂行ニ膺ルヲ要ス元來一國ノ對外活動ハ軍事ト外交ニ依リ律セラレ而モ兩者トモ本質的ニ完全ナル一元的統制ヲ必要トス、軍事上ノ命令ガ二途ニ出スル時軍事的勝利ヲ期シ難ク之ガ爲統帥權ノ獨立ノ存スルト同儕、一國ノ外交力各種ノ機關ニ分掌セラレテ其ノ間統制ヲ缺ク時到底外交交渉ノ成功ヲ期シ難キヲ以テ外務省ガ唯一ノ涉外機關トシテ存置セラルルコト實言ヲ要セス換言スレハ假令國內ニ於テ異論對立アル場合、ニモ、外ニ對シテハ外務省ナル涉外機關ヲ通シテ之ヲ單一ノ國家的



A.1.1.0.30(1)

主張トシテ表明センコト實ニ外務省設置ノ根本的趣旨ナリ、然ルニ最近我國ノ趨勢ヲ見ルニ、内ニ於テハ舉國一致ノ提唱ニ依リ國民ノ結束ヲ固メ乍ラモ、我外交ヲ管掌スル機關ハ著シク分裂ノ傾向ヲ示シ來リ、舉國一体ノ結束モ外ニ對シテハ甚タシク其ノ效果ヲ減殺シツツアリ、即チ巷間或ハ外交ハ既ニ霞ケ關ヲ去レリト稱スルカ如キ事態ヲ現出シ、又滿洲國及支那ニ對スル政策ヲ外務省ヨリ名實共ニ分離シテ獨立ノ機關ノ管掌ニ委ネントシ、更ニ又我對外通商宣傳並ニ文化事業ヲ外務省ヨリ分離セシメントスルノ計畫アルヲ聞ク、斯クテハ我外交ハ恰モ本來ノ中樞神經ヨリ逸脱セル四肢ヲ夫々勝手ニ行動セシムルカ如キ恐ルヘキ無統制ニ陥ラントシ、急迫セル國際危局ニ直面シテ皇國ノ前途眞ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ

既ニ我等ハ外務省ニ在リテ外交不振ノ輿論ヲ聽ク事久シク今茲ニ外務省ノ解体トモ稱スヘキ氣運ニ直面シ、其因テ來ル所ヲ眞摯敬虔ノ念ヲ以テ深く省察スルニ、我等報國ノ精神ト努力ニ於テハ敢テ人後ニ落ツルモノニ非ルコトヲ確信スルモ其ノ業績ニ至リテハ皇國ノ進路ヲ内外ニ闡明シ非常時ノ外交ヲ擔當指導スルニ欠クル所アリタルヲ痛感シ深ク之ヲ遺憾トスルモノナリ、而モ外務省現存ノ陣容ノミヲ以テ今直チニ複雑多岐ニ亘ル今日ノ對外活動、特ニ滿洲國及支那ニ對スル諸般ノ政策ヲ單獨擔當實施スルニ充分ナリトハ言ヒ難カルヘシ、然シ乍ラ右ヲ以テ外交機關ノ分裂ヲ肯定セントスルハ固ヨリ誤ナリ、外務省現在ノ陣容ヲ以テ我對外活動ヲ單獨處理スルニ力足ラストセハ、何故其人員ヲ増加變更シ其機構ヲ擴大強化セサルヤ又

若シ其ノ局ニ當ル人ニシテ其ノ處ニ値セストセハ適材ヲ他ニ取り交迭スレハ可ナリ、現存外務省ヲ構成スル人員ノ能力ノ問題トハ別箇ニ、外務省ナル涉外機關ニ本然的ニ課セラレタル使命ハ嚴乎トシテ存在スルモノナルコトヲ忘ル可ラス、特ニ支那ニ對スル政策ヲ除外シテ歐米ニ對スル外交ナク、又政治經濟宣傳文化ノ何レヲ缺クモ外交機能ヲ完全ニ遂行シ得サルコト明カナルヲ以テ、實ニ新生東亞ノ新事態ニ適合セル新シキ外務省ノ誕生ヲ計リ茲ニ諸般ノ外交政策ヲ綜合統一センコト最モ賢明ノ策ニシテ而モ現下喫緊ノ要務タリ、仍テ日本民族夫々公私共決然革新ヲ要スル此内外非常ノ秋ニ當リ、我等進ンテ外務省ノ更生的革新ヲ決意シ、先ツ日本ノ國際的地位ト國民的氣宇ヨリ見テアラユル情弊ヲ清算シ、現存外務省ノ人員ハ前

述ノ如キ必要ニ應シテ徹底的ニ整備シ、各省間ノ「セクシヨ」ナリズ
ム「ハ」一切率先之ヲ解消シテ民間ハ固ヨリ諸官省ヨリ有能愛國ノ人
士ヲ集中活躍セシムルト共ニ、外務省ノ機構ハ名實共ニ完全ナル外
交ノ一元の統合ヲ實現スル迄充分擴大強化シ、斯テ日本民族一団
ナリテ邁進スヘキ外交上ノ大目標ノ下ニ未曾有ノ國際危局ヲ克服セ
ンコトヲ期スルモノナリ

右聲明ス

0044